
Good-bye, an angel

アルフォンス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Good-bye, an angel

【Nコード】

N2547A

【作者名】

アルフォンス

【あらすじ】

人殺しの悪魔と悪魔の正体を知っている天使の話。

第一章 An opening of hide-and-seek

空には星が輝いていた。

満月だけが、一筋の光だった。

夜しか生きられない私は、何を求めているのだろうか？

沢山の人を殺した。

殺す理由もなく、ただただ、殺し続けた。

血に染まった両手は、もう、何も掴むことはない。

ないはずなのに、求めている。

何を？

何を求めている？

皆と同じ生活を？

違う。

元に戻ることを？

違う。

じゃあ、何を求めている？

頭に浮かんだ、思いつくはずもない言葉。

//天使//

そうか。私は天使を求めているのか。

おかしくて、笑ってしまった。

もし、居たら

そんな奴、私が殺したげる。

欠片一つなく、綺麗に。

夜はまだ、始まったばかり。

♪ さあ、かくれんぼゲームの始まり

どこにいるの？

早く出ておいで

出てこないなら

こっちから探しにいくよ

My dear dear angel. ♪ (私の可愛い、可愛い、天使ちゃん♪)

第二章 The angel who found it

公園の池のあたりを歩いていると、先を急ぐ女がいた。

「すみません」

「はい？」

女は、ちよつと驚いた声で答えた。

「あなたは天使？」

「何を言ってるの？おかしな子」

女はそのまま通り過ぎようと、私の横を通った。が。

月明かりを浴びて、キラリと銀のナイフが光った。

ザシュッ！

女の腹部を深々と、ナイフで刺した。

女はその場に倒れた。

返り血を浴びた服は、真っ赤に染まっていた。

私は笑みを浮かべると、呟くように言った。

「早く出てこないかなあ。私の可愛い、可愛い、天使ちゃん♪」

そのまま、夜の道を歩き続けた。

どこまでも、どこまでも歩いた。その途中に人とすれ違う。

聞く、殺すの繰り返し。

疲れたわけでもなく、どこかのベンチに腰をおろした。

低く笑う、私の声が夜の闇に吸い込まれていった。

「何やってんの、こんなところで」

誰かに声を掛けられた。

前を見ると、13歳ぐらいの女が立っていた。

私は笑みを見せた。

「何も」

「気をつけろよ。ここらへん、物騒だからさ」

「物騒？」

笑みを造ったまま、聞いた。

「殺人鬼がうろついてるんだと。アンタも殺されないようにな」

男口調で女が答えた。

そのまま、そいつは、夜の闇の中に消えていった。

そいつが消えた後、私は呟いた。

「見つけたあ♪」

一昨日から探していた、私の求めるもの。

//天使//を見つけた・・・

第三章 **A n a n g e l a n d t h e d e v i l**

夜が明け、陽が昇って来る。

「やば．．．．」

私はそう、呟くと、走って、自分の居場所を見つけた。

陽が射さない、細い路地に。

そこは、誰も近寄らない場所で、不良などがたまっている場所でもあった。

あまりにも五月蠅かったから、殺しちゃった

五月蠅いって言っても、睨むなどの幼稚なことだったけど。

さて、今日の活動は、〃天使〃を殺すこと。

昨日の夜、公園で出会ったそいつを、殺すこと。

家は把握ずみだが、どう、殺そうか？

いつもと同じパターンで殺す？

銃で撃ち殺す？

それとも、もっと、残酷な方法で殺そうか？

でも、すぐに殺したら、意味がない

面白くもないし、つまらない

あの方法で殺そう。

早く殺してほしいと思う、あの方法で・・・

P M 5..13

//天使//の殺し方を考えていたら、もうすぐ夜になるところだった。

ちよつと、考えすぎちゃったかな？

まあ、いいか。暇つぶしには出来たから。

いつもなら、夜が訪れるまで、

今までに、殺した奴等のことを振り返っていた。

あの時の殺しかたは、よかったなとか、あの時のやり方は最高だった！とか。

まあ、そんなところ。

でも、それだけでは、時間は進まなかった。

すぐ、終わってしまうから。

今日は、よかった。退屈しないですむから。

さあ、活動開始！

公園は昨日と同じ。その隣には、マンション。

そこに、天使はいた。

そう、私の可愛い、可愛い天使！

そっと、階段を上がり、天使の部屋の前に忍びよる。

銀色に光ナイフを手に持ち、ドアノブに手をそえる。

ギィツと、音がし、ドアが開く。

「こんにちは、悪魔さん」

天使が椅子に座っていた。

「知ってたの？」

「まあね」

「関心だわ」

「じゃあ、はじめようか」

私はナイフを捨て、銃を取り出した。

天使も同じく、銃を取り出し、私の脳にむけた。

「「どっちが、勝つかな？」」

銃声の音が響いた。

二人とも、いなくなっていました。

この勝負は、引き分けですね。

では、続きはあの世で！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2547a/>

Good-bye, an angel

2010年10月9日02時35分発行